松波むかし語り　ここに住み続けて　その40

今回のお客様

岡本動物病院の院長

岡本（おかもと）　英美（ひでみ）さん　１丁目

“ペットも人と同じで、高齢化が進む中で心疾患や痴ほうの病気が増えてます！”

この病院が松波唯一の動物病院、では夜中の“急患”なんかも？　「昔は真夜中に起こされたこともありましたが、いまは当番医制度ができてそんなこともなくなりました」。

生まれてすぐ、都内から現在の場所に越してきた岡本さんは、弥生小・轟町中とこの街で大きくなりました。「子どもの頃、このあたりはまだ笹やぶも多かったですね。弥生小５年生の時、低学年が緑町小に移る前は黒砂の子も同級生でしたから、遠征しては用水池にザリガニを餌にメダカ獲りに出かけたり、自由に出入りできた千葉大で木登りもしました」。

なかなか活発な少女時代だったんですね。で、なぜ獣医師に？　両親が動物好きで、当時、家では多い時、イヌを４、５匹飼っていました。我が家では、親が率先して捨てイヌを拾ってきましたから(笑)。そのことが大きいのと、それから獣医になれば女性でも自立できるのではという考えが強かったようです。でも、大学の卒業時、40 人のうち開業したのは私だけ、主流は企業や官公庁、研究職として大学に残るというコースでした。

岡本さんは昭和 57 年、自宅のあったこの土地に動物病院を建てて開業しました。「都市型の病院では患者はネコが多く、農村だとイヌが多くなる傾向がありますが、私のところはイヌ・ネコ半々くらいです。でも、昔よりネコが増えましたね」。最近は、イヌ・ネコも高齢化現象が進んでいるそうです。「だんだん長寿になって、年寄りが増えるというのは人間と同じです。それに合わせて、心臓疾患や痴ほうも増えました」。顔に表情がなくなる、ボーッとしている、部屋の隅に頭を突っ込むと抜け出ることができない、……なんだかボケの症状をうかがっていると人間そっくりです。

専門家から見たペットの飼い方の注意事項は？　「太らせないことですね。おやつの量も好きなだけ与えないとか。『うちは室内から出さないので予防注射はしなくても』というのもまちがいで、どこから病気がうつるか分かりませんので必ず受けてください」とのこと。そして、ペットは人の代用ではなく、そのことを理解して付き合うほうが良いとも。

岡本さんは、町会役員を引き受けて 10 年を越えるベテランです。「当時の区長さんから、１年でいいからと言われて……」。現在は文化福祉部長として、太巻き寿司の講習会や餅つき大会などで活躍しています。「役員になって、今まで接点のない方々とお付き合いが広がったことは感謝しています」。最近、東金に畑をつくって月に一度は通い、じゃがいもやネギ、ダイコンなどを収穫しています。そこに、動物病院長の別の顔がありました。